

2018年8月1日

みずほディーラーズアイ (2018年8月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

*見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 109.00 ~ 113.00

国際為替部 為替営業第二チーム 森谷 友一

先月の為替相場

7月のドル/円相場は上昇する展開となった。週初2日に110円台後半でオープンした後、111円を上抜ける場面も見られたが、同水準では売り意欲も強く110円台後半まで反落。3~4日は米中貿易摩擦懸念を背景に月安値となる110.27円をつけた。5日、日系企業による米企業の欧州事業買収の報道等を背景にユーロ/円が急伸しドル/円は110円台後半まで連れ高に。6日は米国による対中関税が発動したものの、市場の反応は限定的。米6月雇用統計は失業率や平均時給が弱めな内容だったこともあり110円台前半まで下落した。9日は英国政治の先行き不透明感の高まりから債券売りドル買い地合いとなり、全体的なドル買いの流れの中で110円台後半まで上昇。10日はトランプ米大統領が中国への追加関税を準備していると伝わると110円台後半まで下落。11日はストップを巻き込みながら112円を上抜け。12日から13日にかけてもこの流れが続き112円台後半まで上昇した。16日は東京休場となる中、中国・EU・カナダなどの報復関税は不当と米政府が世界貿易機関(WTO)に提訴したとの報を受け112円台前半まで下落。17日はパウエルFRB議長が米経済について楽観的な見解を示したことが好感され113円手前まで続伸。18日もドル買いの流れは継続し113円を上抜けたが、米鉄鋼・アルミ関税はWTOルール違反と中国が表明したことが嫌気され112円台後半まで反落。19日は良好な米経済指標を受けて月高値となる113.18円をつけたが、トランプ米大統領がFRBの利上げに対して不満を示すとドルが売られる展開となり112円台前半まで急落。20日は週末前のポジション調整などを背景に111円台前半まで下落。23日は日銀が金融政策の修正を検討しているとの報道を受け110円台後半まで値を下げたが、ドル買戻しが強まると111円台半ばまで反発。24日は人民元のフィクシングレートが約1年ぶりの元安水準に設定されると、111円台前半まで売られるも、中国国務院による積極財政政策への期待感から上海株が上昇すると111円台半ばまで反発。25日は日銀によるETF購入配分見直しとの報道を受けて円買いが強まると110円台後半まで下落。26日は円長期債利回りが再び上昇する流れとなる中、指値オベが見送られると、一時月安値となる110.58円まで下押された。27日、米4~6月GDPの発表後に110円台後半まで売られたものの、米株安が一服すると111円台前半まで反発。30日は重要イベントを控えて111円ちょうどを挟んでもみ合い推移に。31日は日銀が「強力な金融緩和継続のための枠組み強化」を決定したが、長期金利目標は据え置かれたこと等から円安が進行。

今月の見通し

今月のドル/円相場は上値の重い推移を予想する。

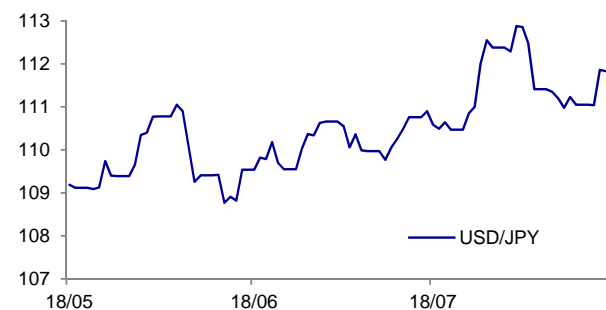
先月後半以降、日銀の金融政策に対する注目度が高まっている。7月30~31日に開催された日銀金融政策決定会合においては「強力な金融緩和継続のための枠組み強化」を決定。政策金利についてのフォワードガイダンスの導入とともに、金利については「経済・物価情勢等に応じて上下にある程度変更しうる」とした。事前に政策調整に対する期待感が高まっていた中、長期金利の目標について「ゼロ%」程度で据え置かれたこと等から直後は円安で反応したもの、これまで事実上0.1%を上限としていた長期金利の誘導目標について柔軟性を与えることで、金利の上昇を以前よりも許容する格好となったことを勘案すると、円安の反応はさほど長続きするものではないと考えている。

一方、米国においては8月1日にFOMCが開催される。前回6月会合において25bpの利上げが決定され、FOMCメンバーによる政策金利見通し(ドットチャート)における年内利上げ回数の中央値が3回から4回に引き上げられたばかり。FRBによる利上げが継続的に実施される中、中立金利に関する議論に注目が集まるものの、6月FOMC以降に発表された経済指標やFOMC関係者の発言において、今後の利上げペースの見立てに大きな変更を強いるほどの新規材料は特段無かった事を勘案すると今会合においてはサプライズは無い可能性が高そう。年内残り2回の利上げについては織り込みが進んでいることも踏まえると米金融政策への期待を受けてのドル買いは盛り上がりづらい状況と言えそうだ。

また、貿易摩擦関連の報道やトランプ政権の言動には引き続き注意が必要だ。7月6日に米国による対中関税第一弾が発動したものの大きな混乱につながっていないことや米欧首脳会談において合意に到ったことは安心材料ではあるものの、依然として米中間での決着は見えておらず、今後の動向次第では再びリスクオフを誘発する可能性もあり得る。また、先月はトランプ大統領が為替や金利の水準に言及。ドル高局面においては再度トランプ大統領からドル高を牽制するとの思惑が高まることも想定され、ドルの上値を重くする要因となりそうだ。

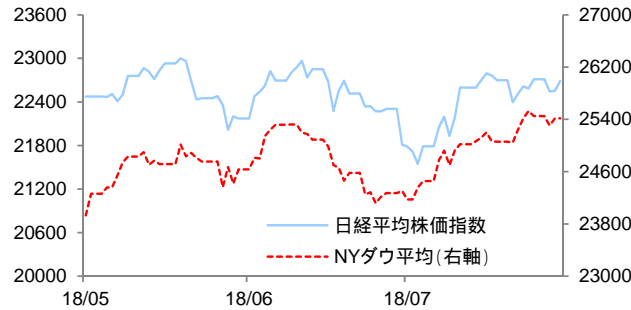
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
7/2	ISM製造業景況指数	6月	58.5	60.2	58.7
7/5	ISM非製造業景況指数	6月	58.3	59.1	58.6
7/6	非農業部門雇用者数変化	6月	195K	213K	244K
7/6	失業率	6月	3.8%	4.0%	3.8%
7/6	平均時給(前年比)	6月	2.8%	2.7%	2.7%
7/12	消費者物価指数(前年比)	6月	2.9%	2.9%	2.8%
7/16	小売売上高(前月比)	6月	0.5%	0.5%	1.3%
7/18	米住宅着工件数	6月	1320K	1173K	1337K
7/27	GDP(年率/前期比)	2Q	4.2%	4.1%	2.2%

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上